

# 令和6年度 転入転出者アンケートについて

## (まとめ・分析結果)

### ■転入者アンケート調査の方法及び概要

- ・対 象：羽曳野市に転入した 400 人
- ・調査方法：郵便による発送・回収
- ・調査時期：令和6（2024）年 10 月
- ・回収状況：転入者 116 人（回収率 29.0%）

### ■転出者アンケート調査の方法及び概要

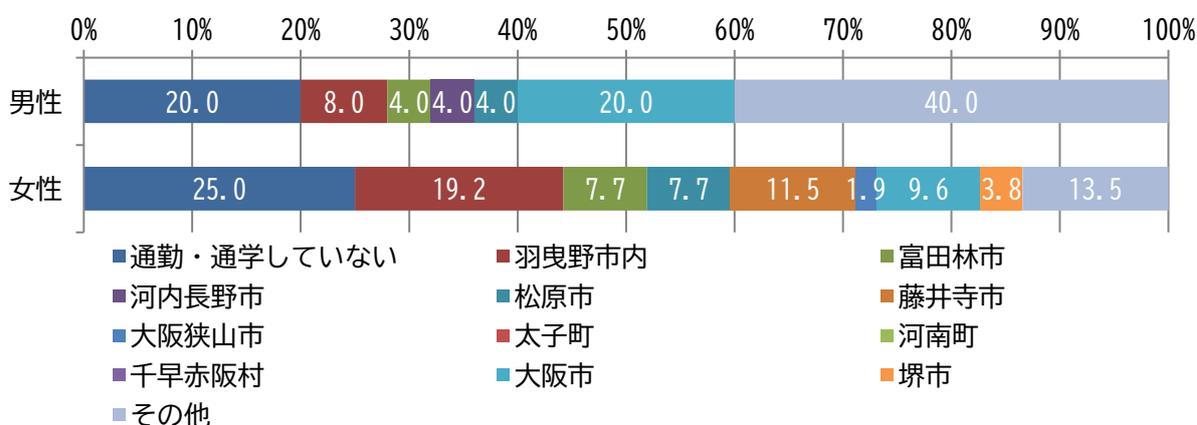
- ・対 象：羽曳野市から転出した 600 人
- ・調査方法：郵便による発送・回収
- ・調査時期：令和6（2024）年 10 月
- ・回収状況：転出者 174 票（回収率 29.0%）

## ■ 転入者アンケート

### (1) 通勤・通学先

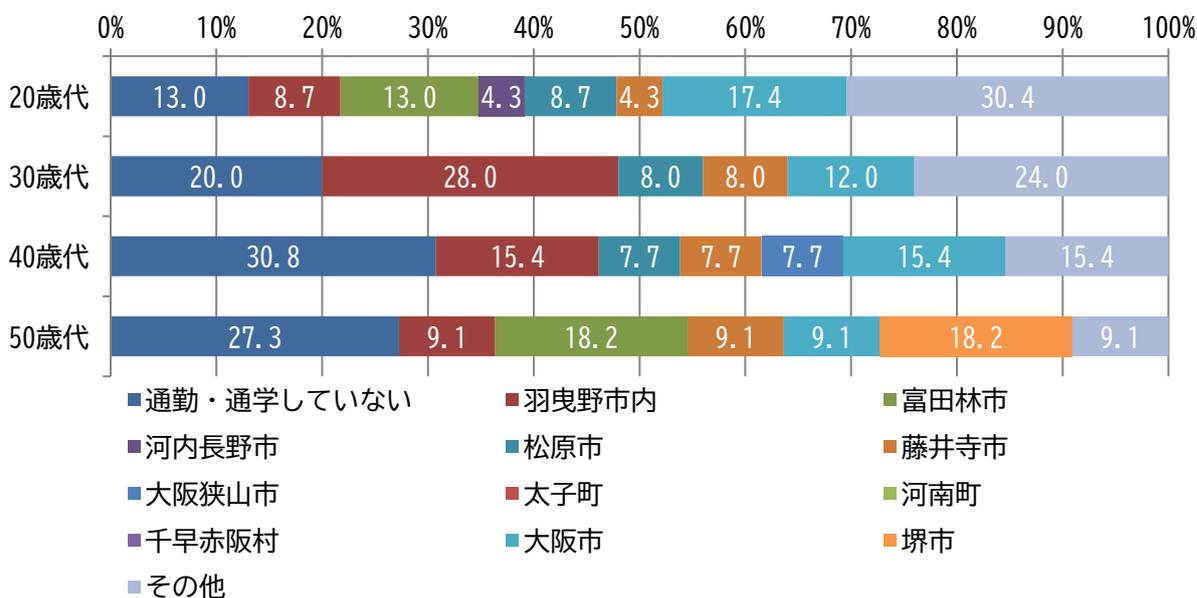
#### ■ 男女別

男性の20.0%が大阪市へ通勤・通学しており、羽曳野市内への通勤・通学は8.0%である。また近隣市町村以外への通勤・通学者も40.0%と多く、大阪府北部や奈良県への通勤が多い。一方、女性は19.2%が市内への通勤・通学となっている。



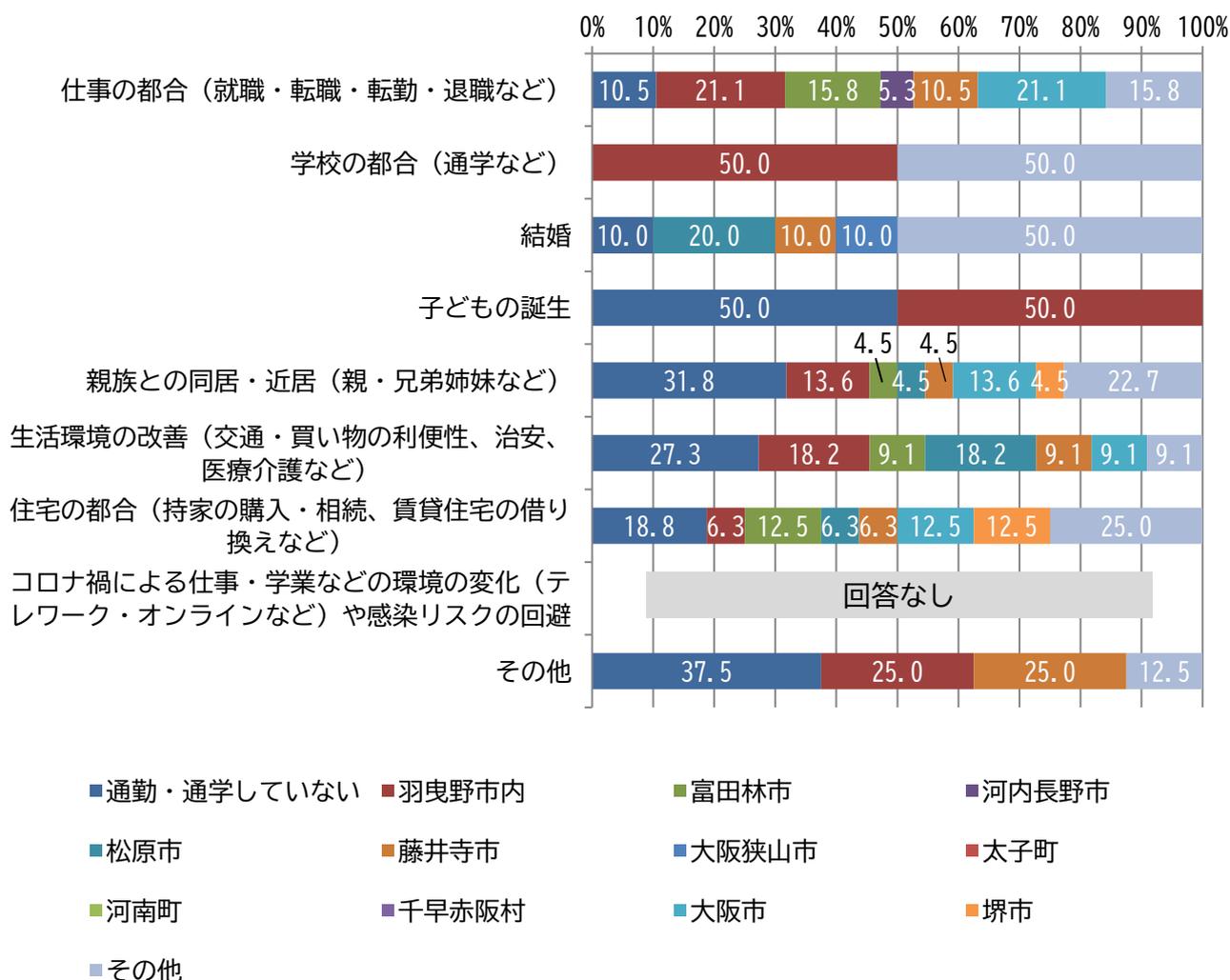
#### ■ 年代別

市内への通勤・通学が多いのは30歳代であり、28.0%となっている。一方で20歳代の通勤・通学者は市内への通勤・通学が8.7%と低く、大阪市およびその他市町村への通勤・通学が計47.8%と約半数を占める。



## ■ 転入理由別

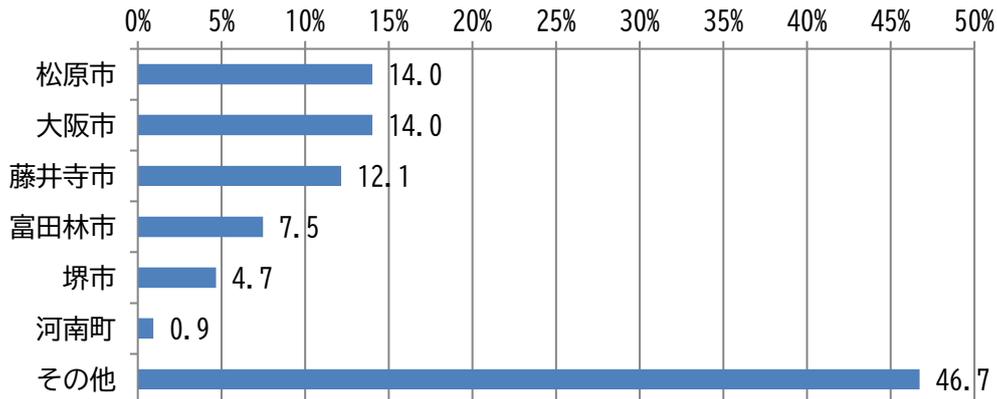
転入理由別に見ると、仕事の都合で転入している方のうち 21.1%ずつがそれぞれ羽曳野市と大阪市へ通勤・通学している。



## (2) 引越前に住んでいた市町村

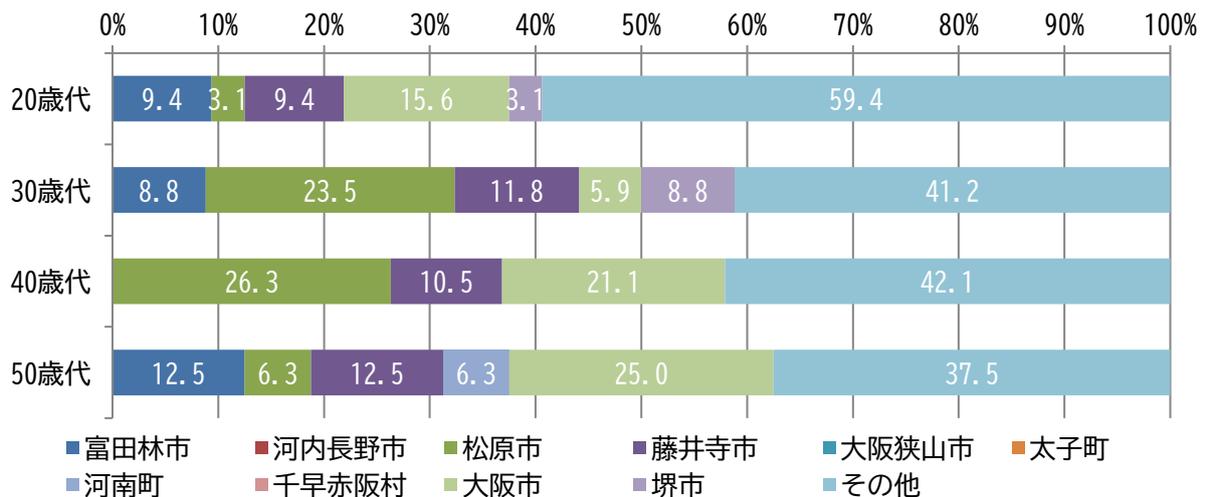
### ■ 住んでいた市町村

引越し前に住んでいた市町村の割合としては、松原市と大阪市に住んでいる方が14.0%と最も高く、次いで藤井寺市の12.1%、富田林市の7.5%となっている。一方、「その他」の回答割合も46.7%と高く、大阪府北部や奈良県・和歌山県等の近隣市町村も多く含まれている。



### ■ 年代別

20歳代の最多は大阪市の15.6%であり、その他も59.4%と高い割合になっていることから、多様な自治体からの転入が見受けられる。30歳代、40歳代はいずれも松原市からの転入が最多となっており、近隣市町村からの転入が多いことがわかる。

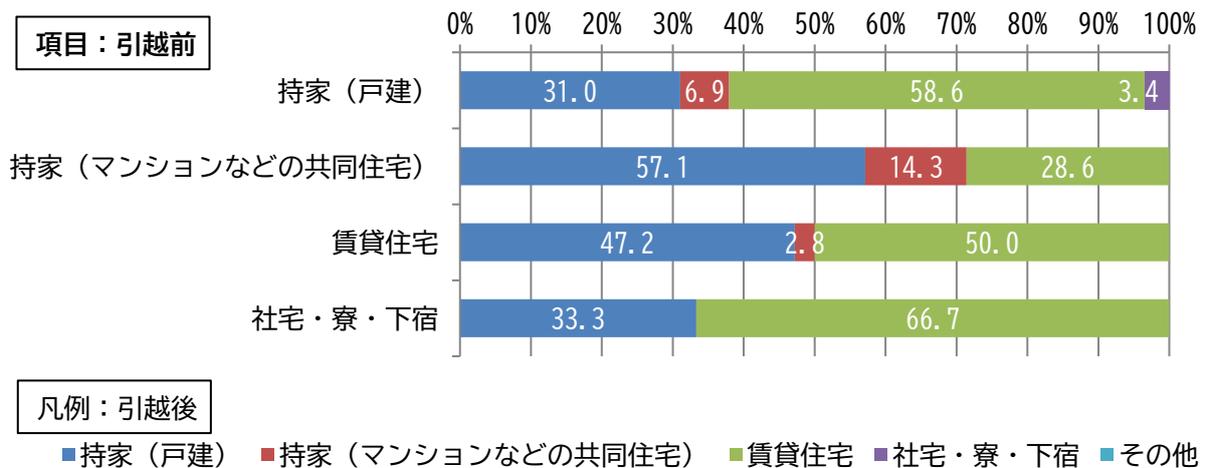
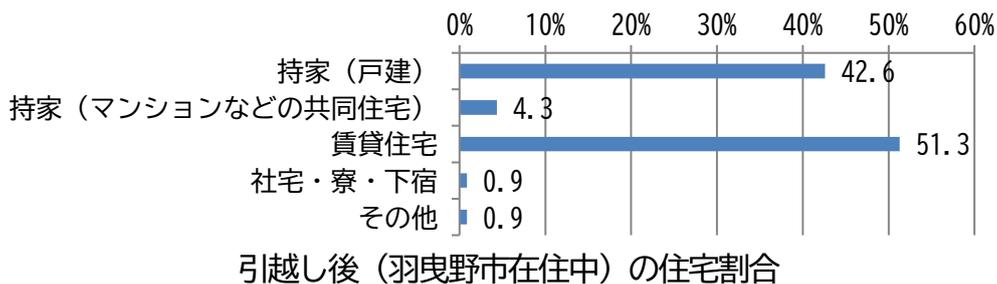
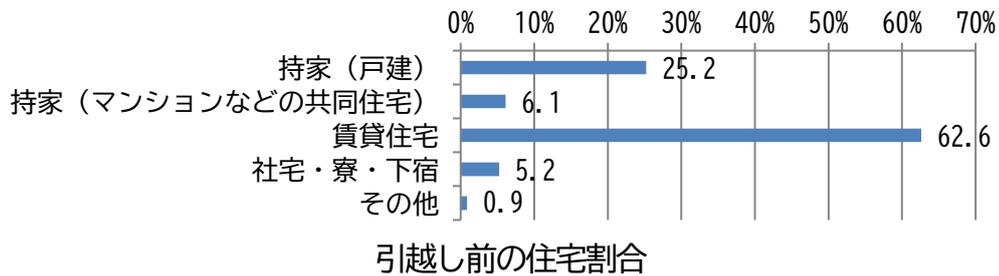


### (3) 住宅

#### ■ 住居形態の変化

転入後の住居形態を見ると、転入前と比較して持家（戸建）の割合が17.4ポイント増加している。

また、居住形態の変化を見ると、引越し前に持家（戸建）に住んでいた方の58.6%は賃貸住宅に引越している一方、持家（共同住宅）に住んでいた方の57.1%、賃貸住宅に住んでいた方の47.2%が持家（戸建）に引越すなど、引越しを契機に居住形態が変化する傾向がみられる。

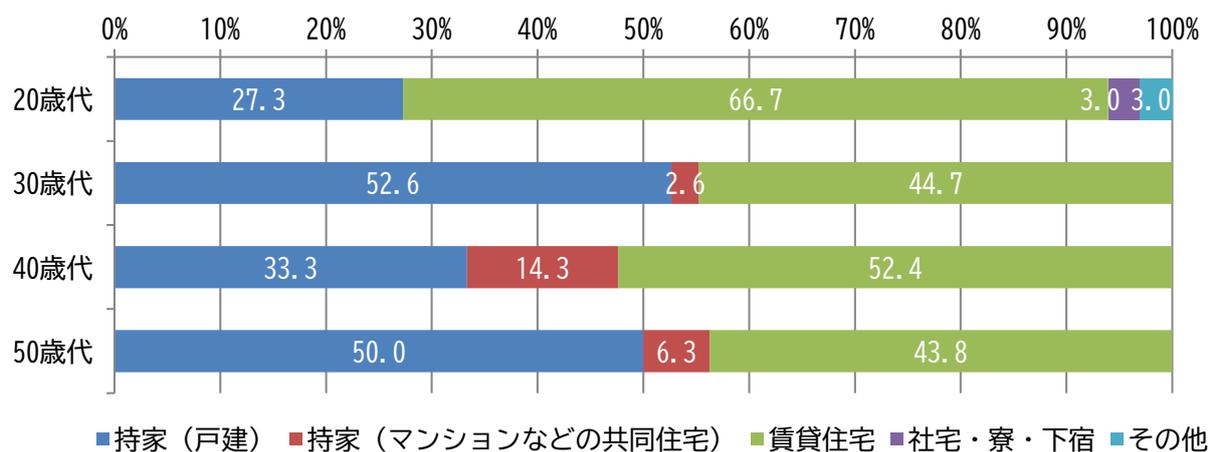


居住形態の変化

## ■ 年代別

20歳代は引っ越し後、賃貸住宅に居住している方の割合が66.7%を占める。また40歳代においても、転入後52.4%が賃貸住宅に住んでいる。

一方、30歳代や50歳代の転入では、持家（戸建）の割合が50.0%以上となっており、転入後に持家を所有している方の割合が高いことがわかる。

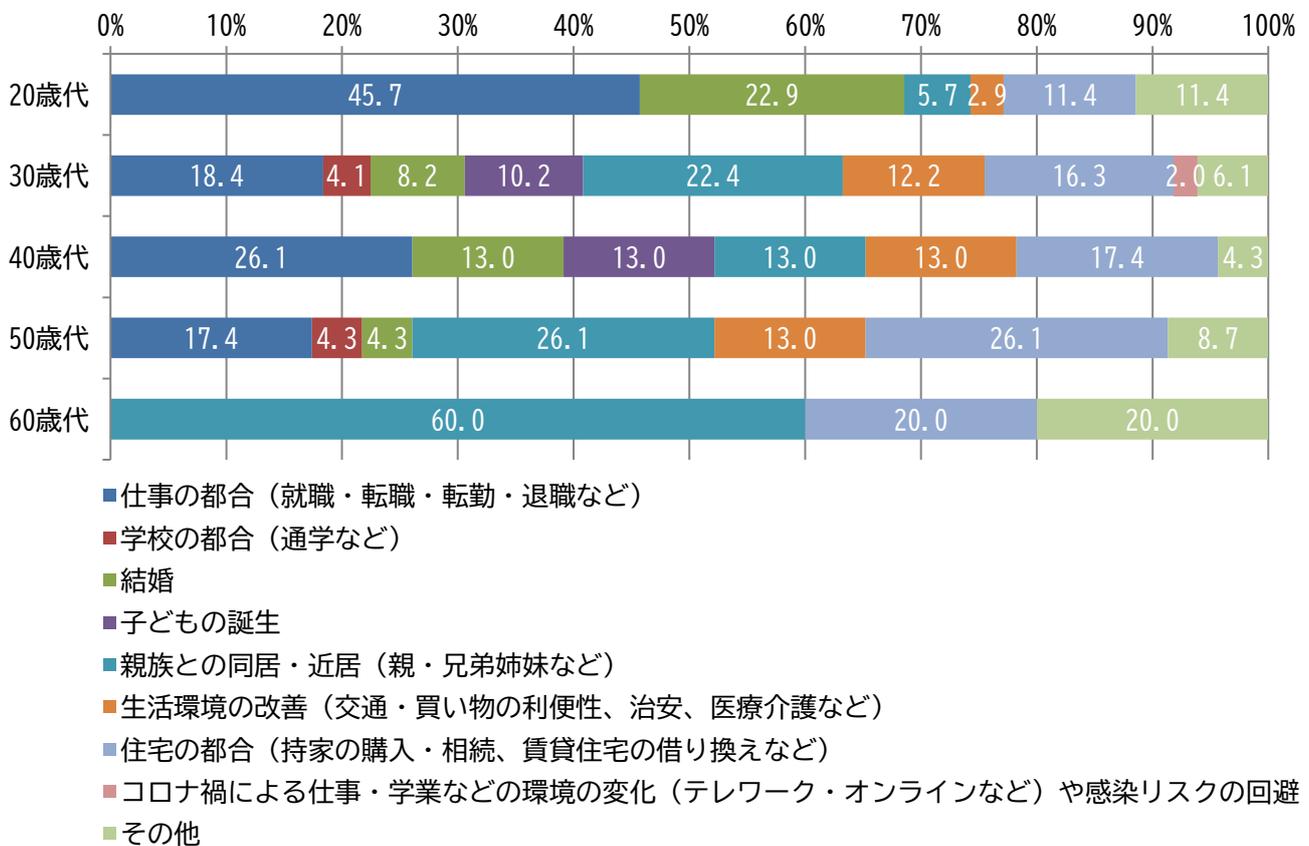


## (4) 引越したきっかけ

### ■ 年代別

年代別の引越したきっかけをみると、20歳代は「仕事の都合」が45.7%と最も多く、30歳代では「親族との同居・近居」の割合が最も高くなっている。40歳代では「仕事の都合」に次いで「住宅の都合」が全体のうち高い割合を占めており、50歳代では「親族との同居・近居」および「住宅の都合」が同程度、60歳代では「親族との同居・近居」が大部分を占めている。

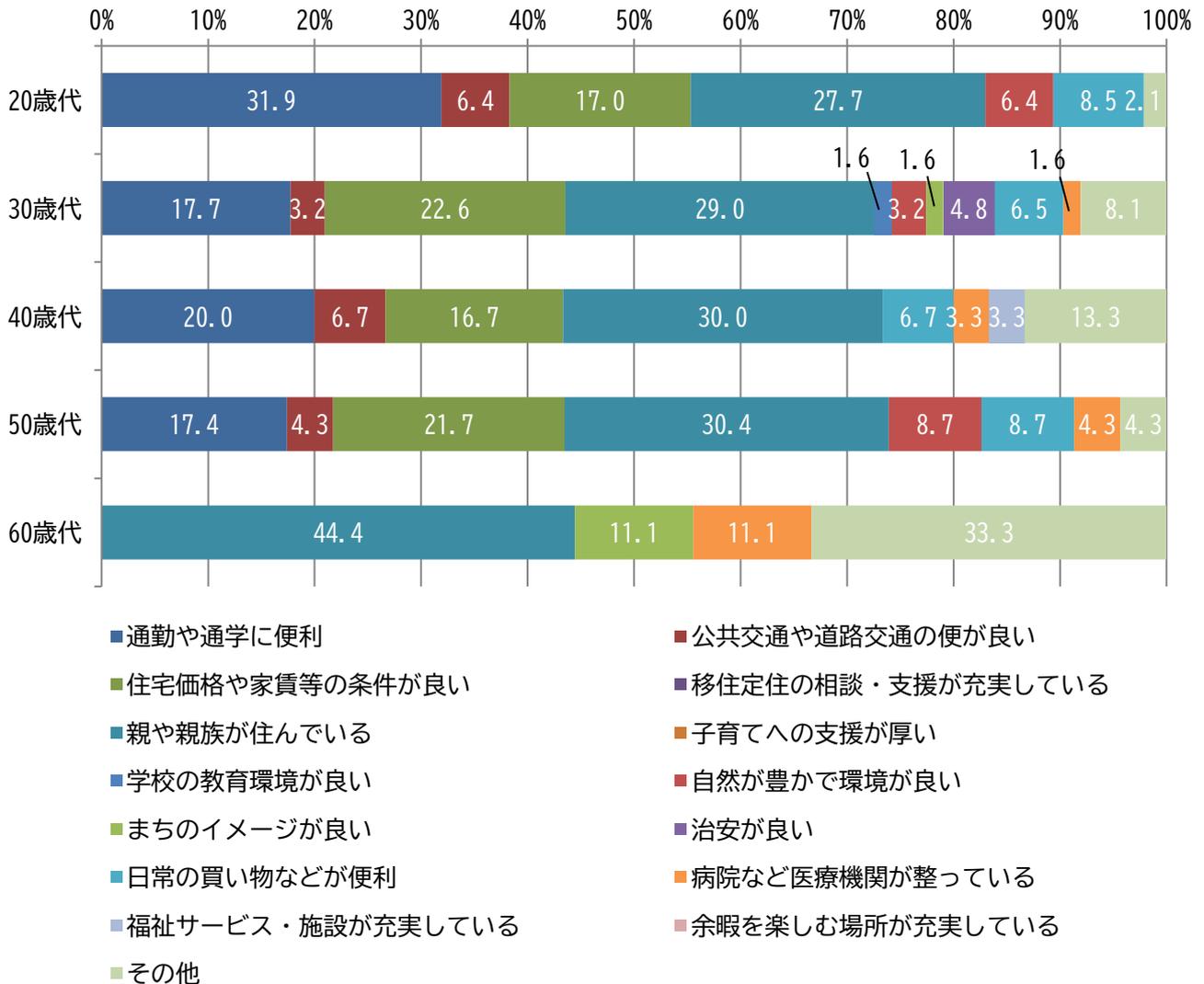
各年代を通じ、転入のきっかけとして大きな影響を与えているのが「①仕事の都合」、「②住宅の都合」、「③親族との同居・近居」であり、年代が低いほど①に、高いほど③による転入が多いと考えられる。



## (5) 転入理由

### ■ 年代別

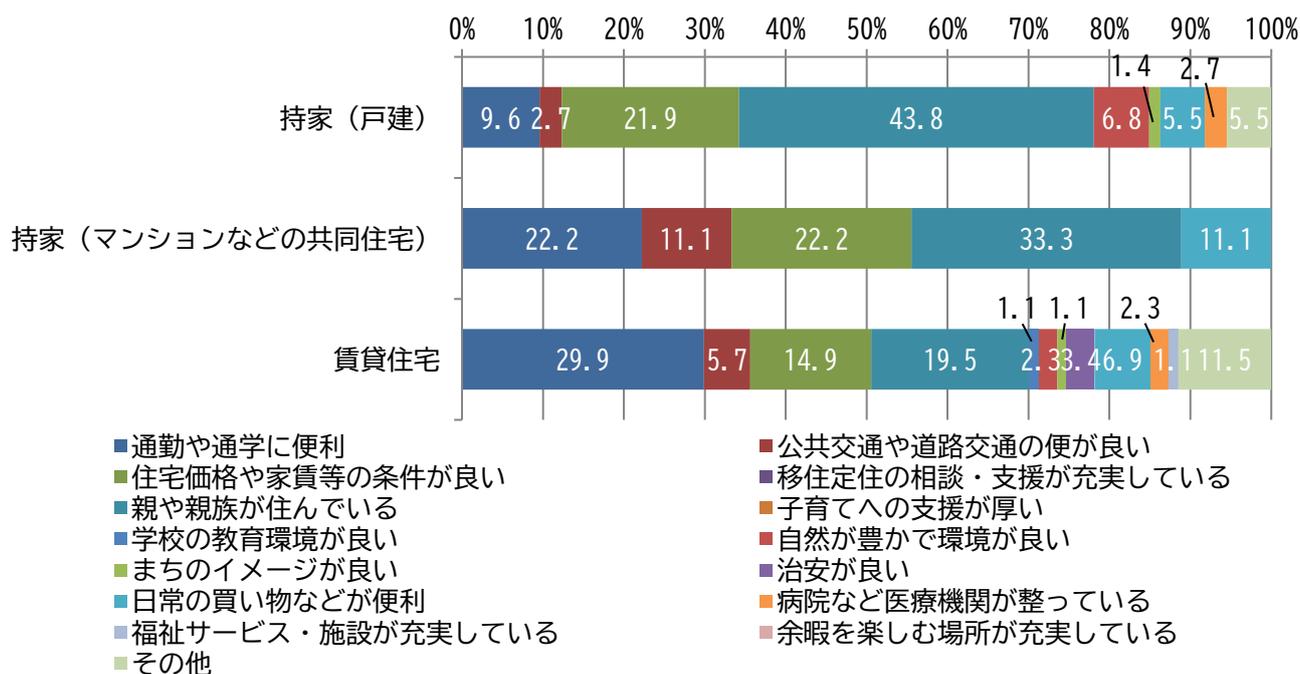
各年代ともに、「親や親族が住んでいる」ことが転入理由の大部分を占めている。加えて、特に若い世代は「通勤や通学に便利」であること、30歳代、50歳代等は「住宅価格や家賃等の条件が良い」ことを理由に引越している。



## ■ 引越後の居住形態別

引越後、持家（戸建、共同住宅とも）に住んでいる人は「親や親族が住んでいる」ことが転入理由のうち最も大きな割合を占めている。

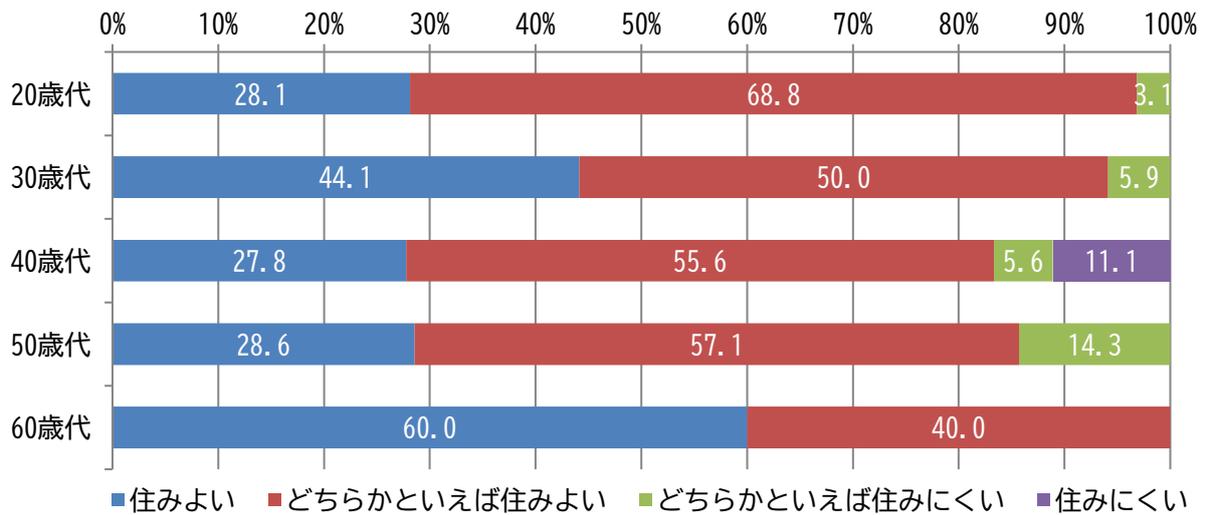
一方で、賃貸住宅に住んでいる人は「通勤や通学に便利」が最多の29.9%となっており、引越し後の居住形態と転入理由の相関がみられる。



## (6) 住み心地

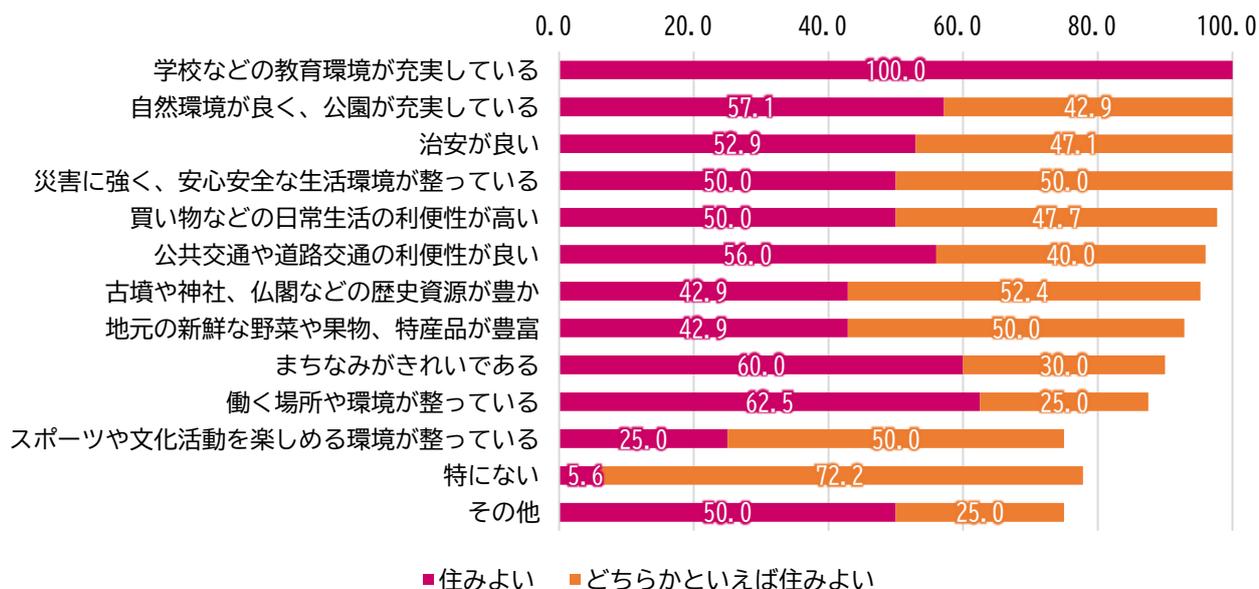
### ■ 年代別

「住みよい」「どちらかといえば住みよい」を合計すると、各年代とも8割以上を占めている。

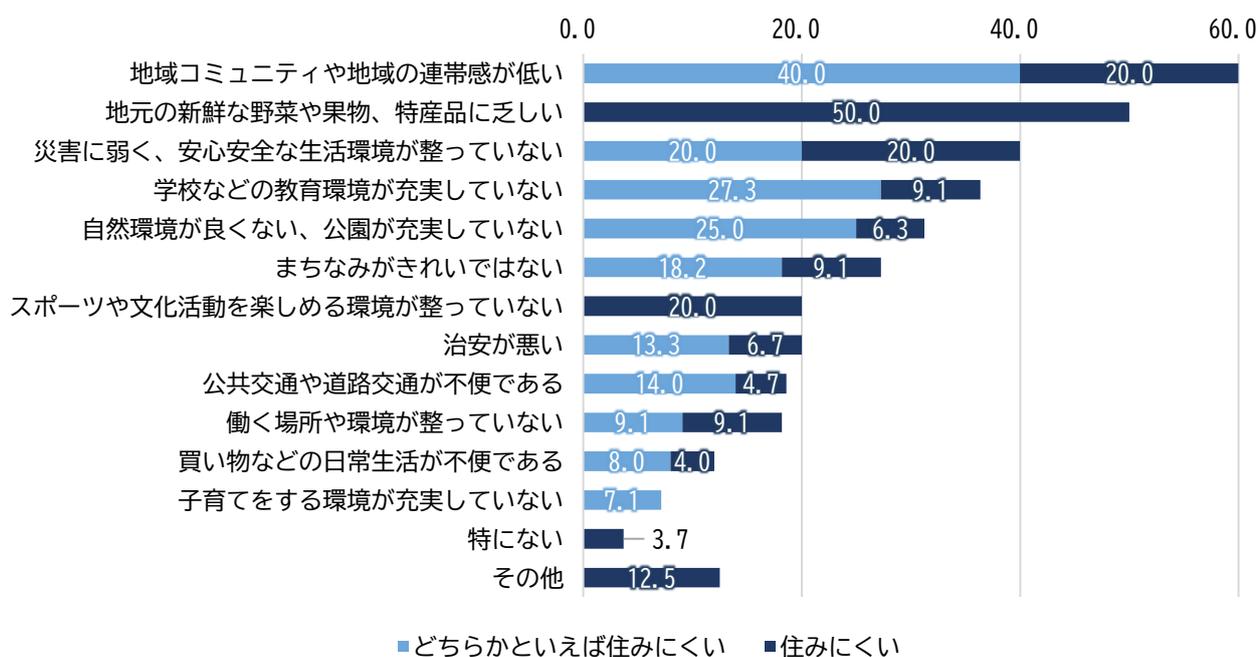


## ■ 生活していてよかったことおよび不満

羽曳野市の生活について、「住みよい」「どちらかといえば住みよい」と回答した人の100%が「学校などの教育環境が充実している」、「自然環境が良く、公園が充実している」、「治安が良い」、「災害に強く、安心安全な生活環境が整っている」と回答し、他6項目においても90%を超える回答となっている。一方、「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と回答した方の60%が「地域コミュニティや地域の連帯感が低い」、50%が「地元の新鮮な野菜や果物、特産品に乏しい」と回答している。



「住みよい」「どちらかといえば住みよい」と回答した方の、生活していてよかったこと

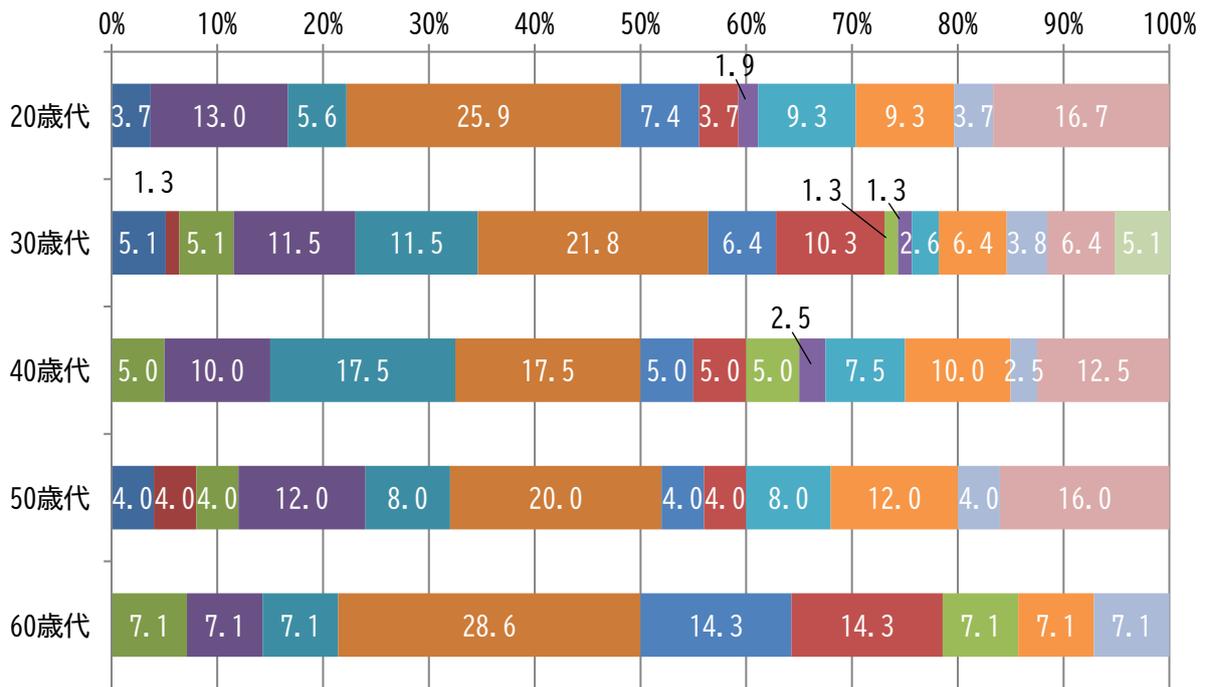


「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と回答した方の、生活している不満

## (7) 羽曳野市で生活していて満足していること

### ■ 年代別

各年代において、「買い物などの日常生活の利便性が高い」が最も大きな割合となっている。次いで20歳代、30歳代、50歳代では「公共交通や道路交通の利便性が良い」、30歳代や40歳代では「古墳や神社、仏閣などの歴史資源が豊か」、60歳代では「地元の新鮮な野菜や果物、特産品が豊富」「自然環境が良く、公園が充実している」が高く評価されている。

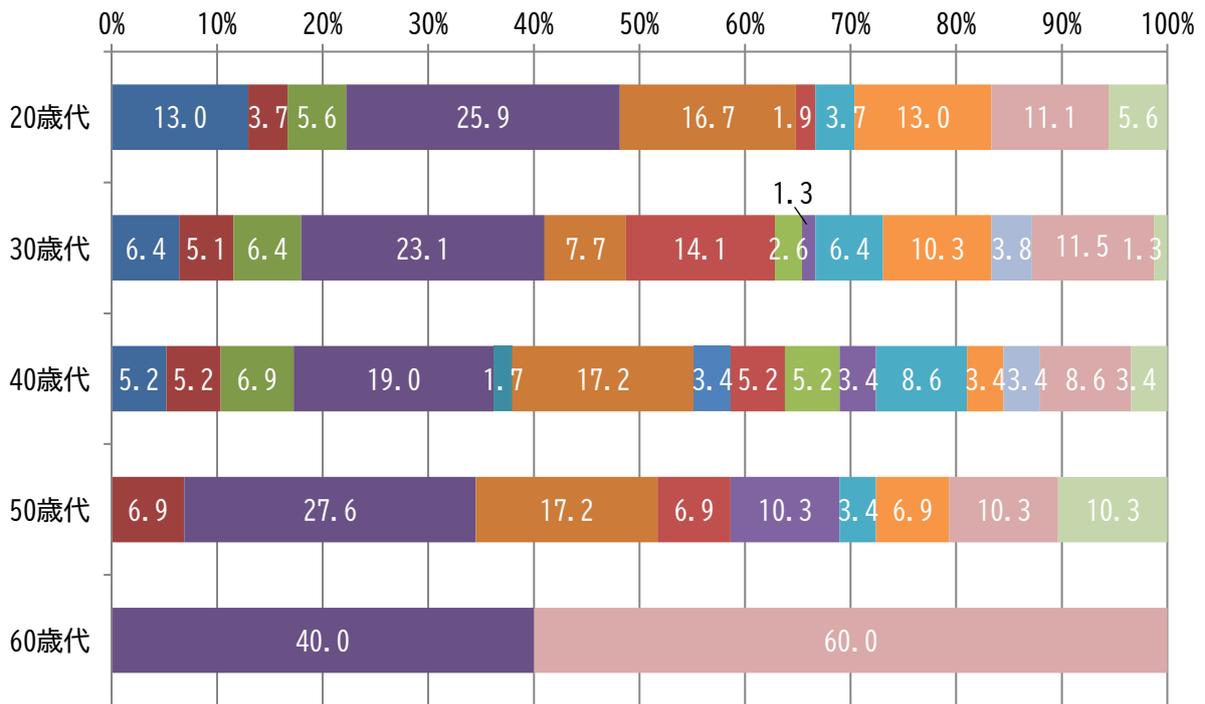


- 子育てしやすい環境が充実している
- 働く場所や環境が整っている
- 古墳や神社、仏閣などの歴史資源が豊か
- 地元の新鮮な野菜や果物、特産品が豊富
- スポーツや文化活動を楽しめる環境が整っている
- まちなみがきれいである
- 災害に強く、安心安全な生活環境が整っている
- その他
- 学校などの教育環境が充実している
- 公共交通や道路交通の利便性が良い
- 買い物などの日常生活の利便性が高い
- 自然環境が良く、公園が充実している
- 地域コミュニティや地域の連帯感が高い
- 治安が良い
- 特にない

## (8) 羽曳野市で生活していて不満に感じること

### ■ 年代別

各年代で「公共交通や道路交通が不便である」という回答が最も多い。20歳代、40歳代、50歳代では、次いで「買い物などの日常生活が不便である」の割合が高く、30歳代では15.1%が「治安が悪い」と回答、30歳代では「自然環境が良くない、公園が充実していない」の割合が高くなっている。60歳代では、「特にない」が60%と大きな割合を占めている。



- 子育てをする環境が充実していない
- 働く場所や環境が整っていない
- 古墳や神社、仏閣などの歴史資源に乏しい
- 地元の新鮮な野菜や果物、特産品に乏しい
- スポーツや文化活動を楽しめる環境が整っていない
- まちなみがきれいではない
- 災害に弱く、安心安全な生活環境が整っていない
- その他
- 学校などの教育環境が充実していない
- 公共交通や道路交通が不便である
- 買い物などの日常生活が不便である
- 自然環境が良くない、公園が充実していない
- 地域コミュニティや地域の連帯感が低い
- 治安が悪い
- 特にない

## ■ 転出者アンケート

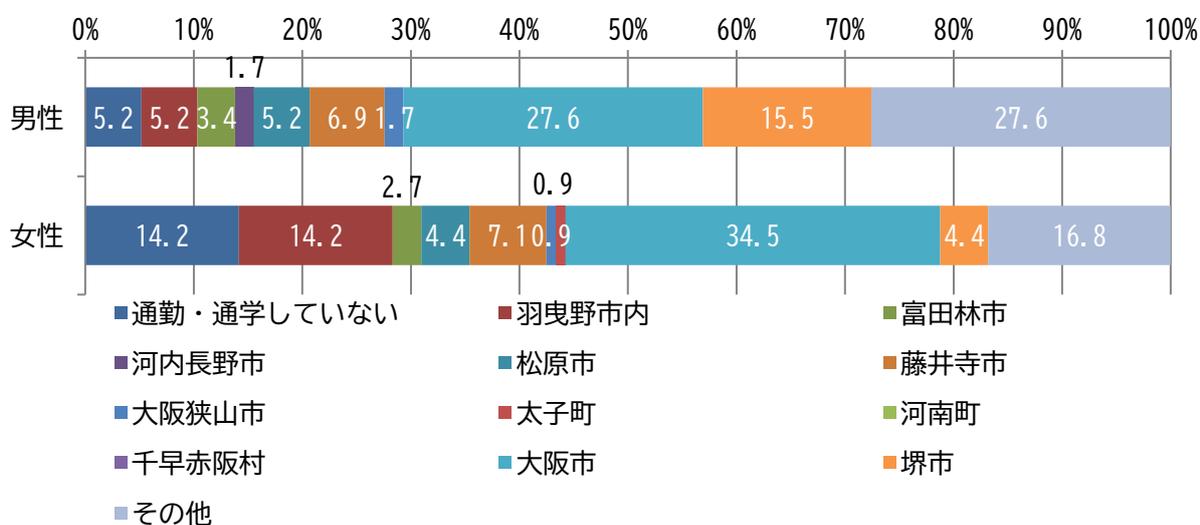
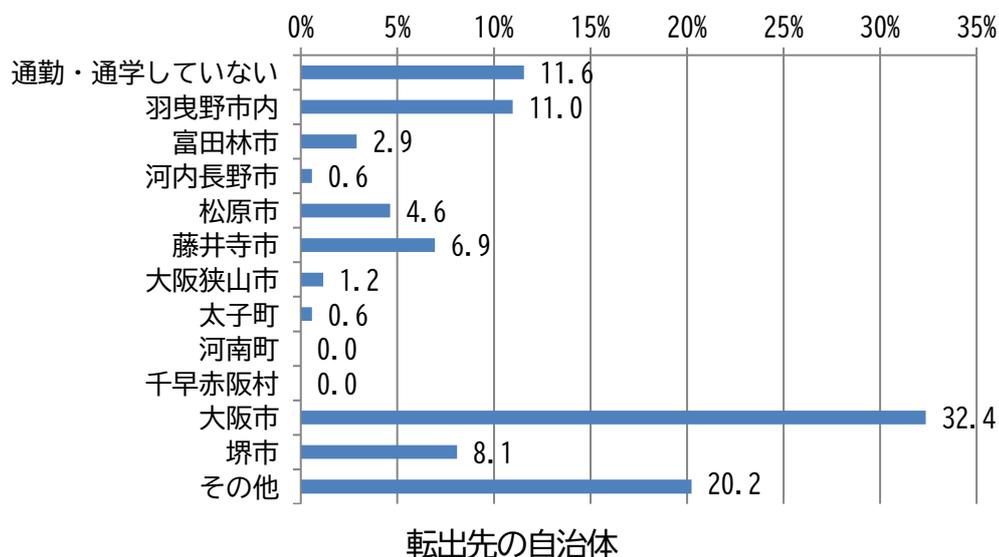
### (1) 通勤・通学先

#### ■ 男女別

転出後の通勤・通学先は、大阪市への転出が32.4%、その他自治体が20.2%となっており、次いで羽曳野市内の11.0%となっている。

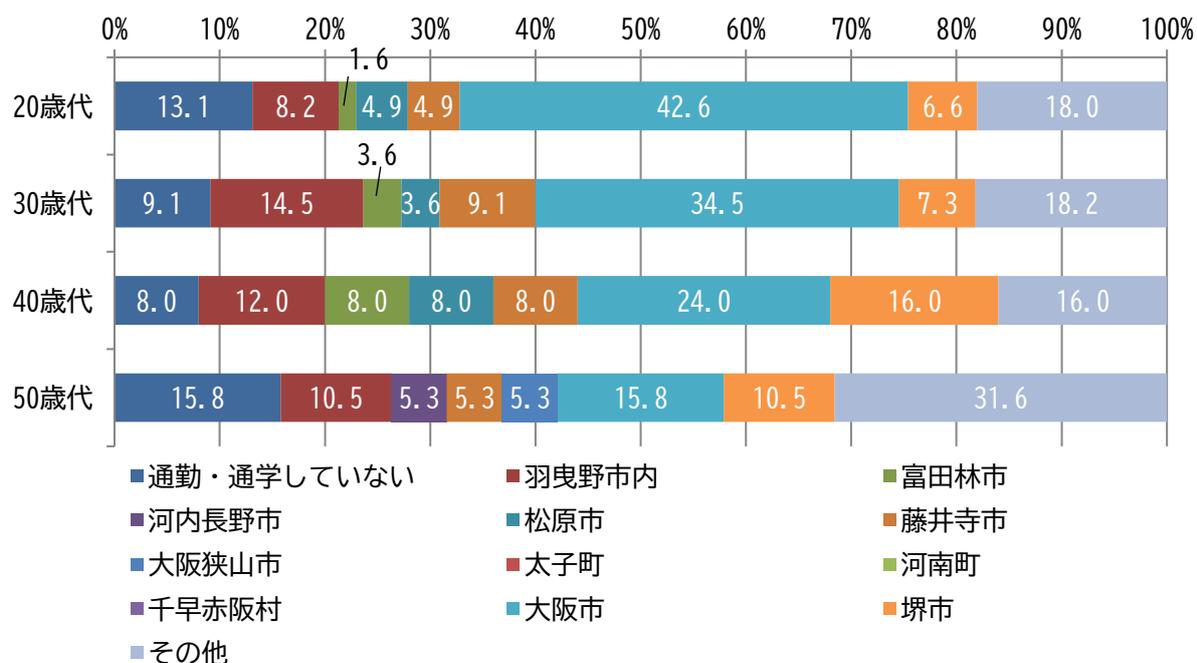
男性の27.6%が大阪市へ通勤・通学している。また「その他」と回答した方の大多数は大阪府内北部や兵庫県・奈良県などの近隣県への通勤・通学となっている。羽曳野市内での通勤・通学は5.2%となっている。

一方、女性は大阪市への通勤・通学が34.5%と最も多くなっている一方、次いで14.2%は羽曳野市内への通勤・通学となっており、転出後も勤務先や通学先が変わっていない層が一定数いると思われる。



## ■ 年代別

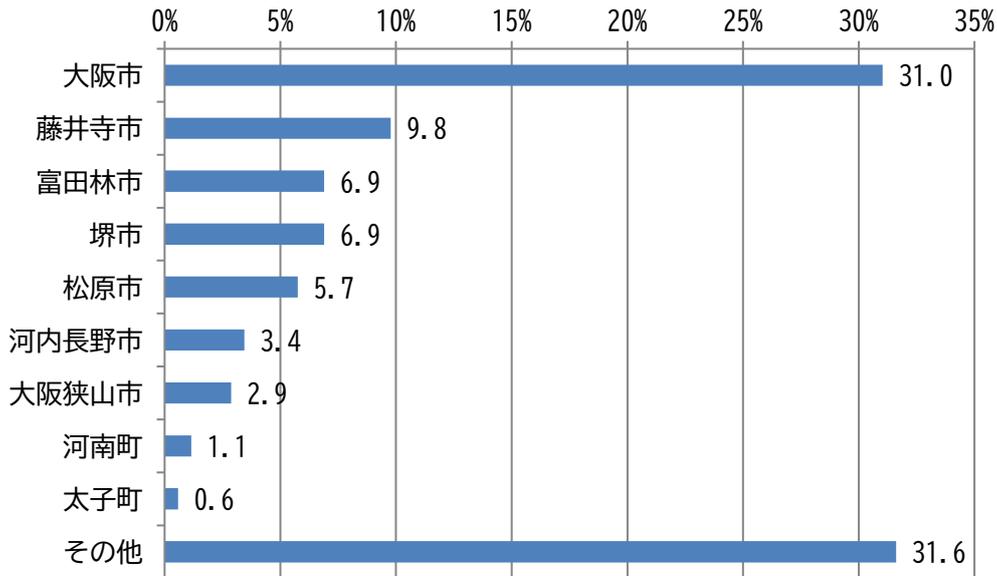
各年代とも、通勤・通学先の最多は大阪市となっている。特に20歳代では大阪市への通勤・通学が42.6%となっており、半数近い方が大阪市へ通勤・通学している。年齢が高くなるにつれて通勤・通学先は多様化し、50歳代では「通勤・通学していない」が大阪市への通勤・通学と並んで最多となっている。



## (2) 引越後に住んでいる市町村

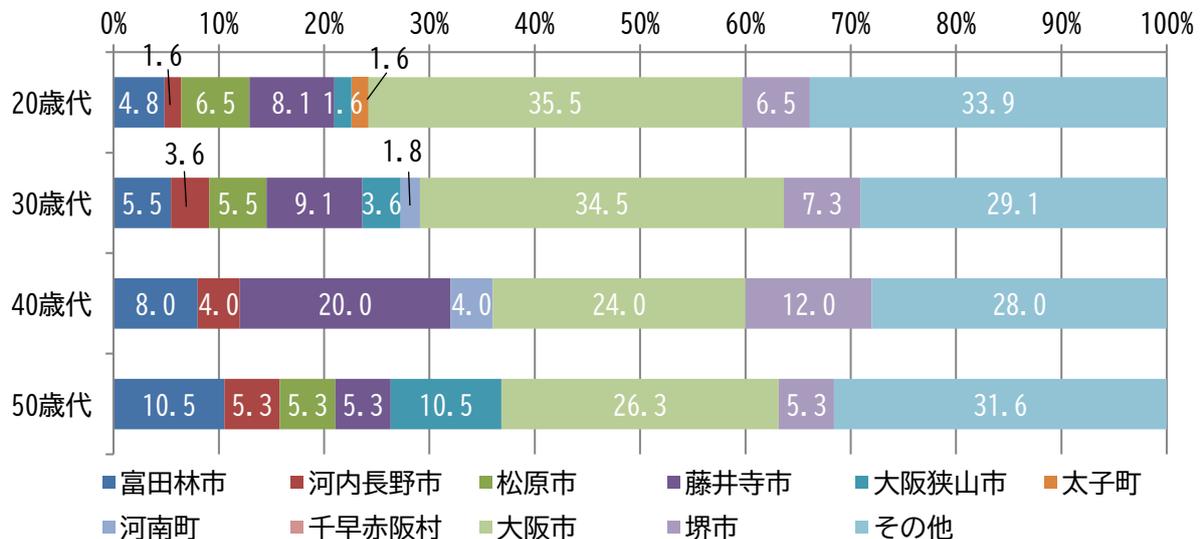
### ■ 住んでいる市町村

引越し後、大阪市に住んでいる方が31.0%と最も高く、次いで藤井寺市の9.8%、富田林市および堺市の6.9%となっている。「その他」の回答としては、大阪府北部が最も多く、次いで奈良県、岐阜県等に転出している。



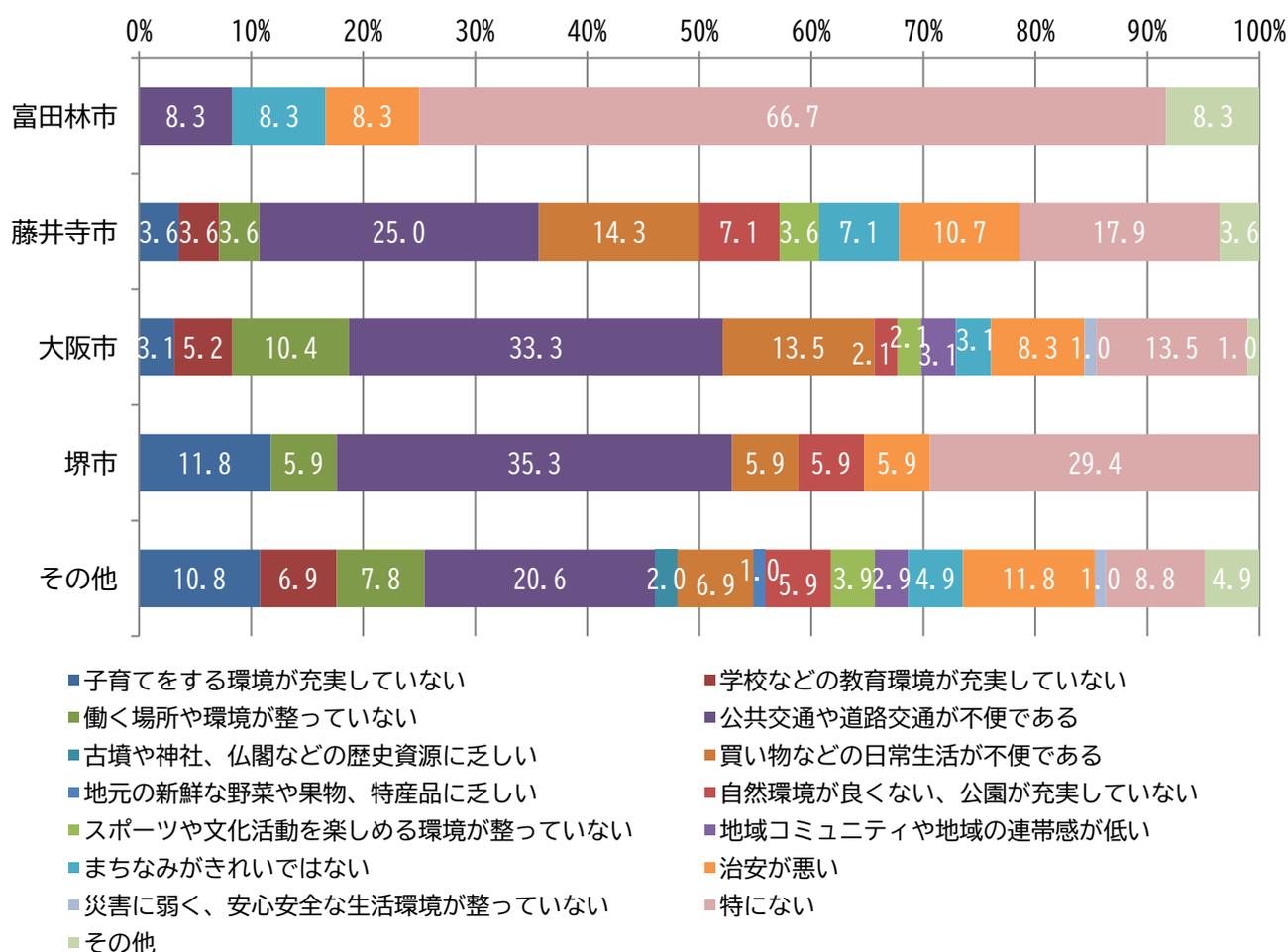
### ■ 年代別

各年代とも、転出先の最多は大阪市となっている。特に20歳代では大阪市への転出が35.5%、30歳代では34.5%と若年層で高い割合を占めている。40歳代では、藤井寺市への転出も20.0%と多い。



## ■ 羽曳野市で生活しているの不满

転出先の上位市町村のうち、羽曳野市での生活に関する不满としては「公共交通や道路交通が不便である」が藤井寺市、大阪市、堺市、その他への転出で最も大きな割合を占めている。また大阪市や藤井寺市への転出では、「買い物などの日常生活が不便である」も次いで大きな割合を占めている。

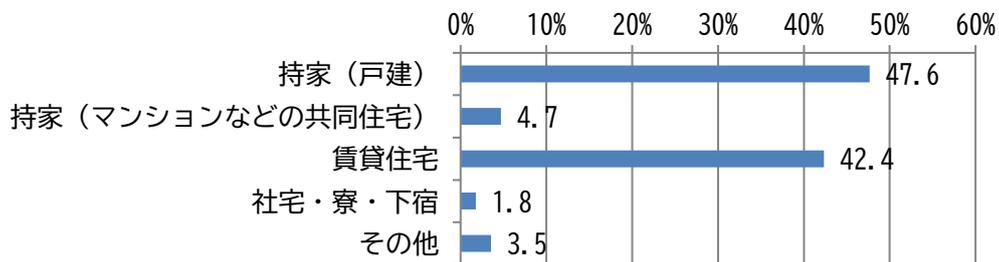


### (3) 住宅

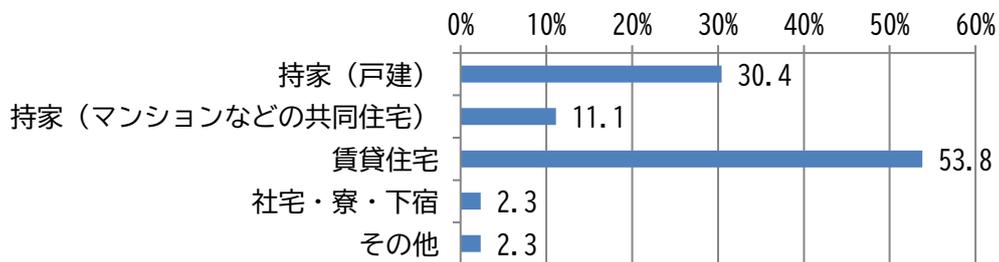
#### ■ 住居形態の変化

転出後の住居形態を見ると、転入前(羽曳野市在住中)と比較して持家(戸建)の割合が17.2ポイント減少し、持家(共同住宅)の割合が6.4ポイント、賃貸住宅の割合が11.4ポイント増加している。

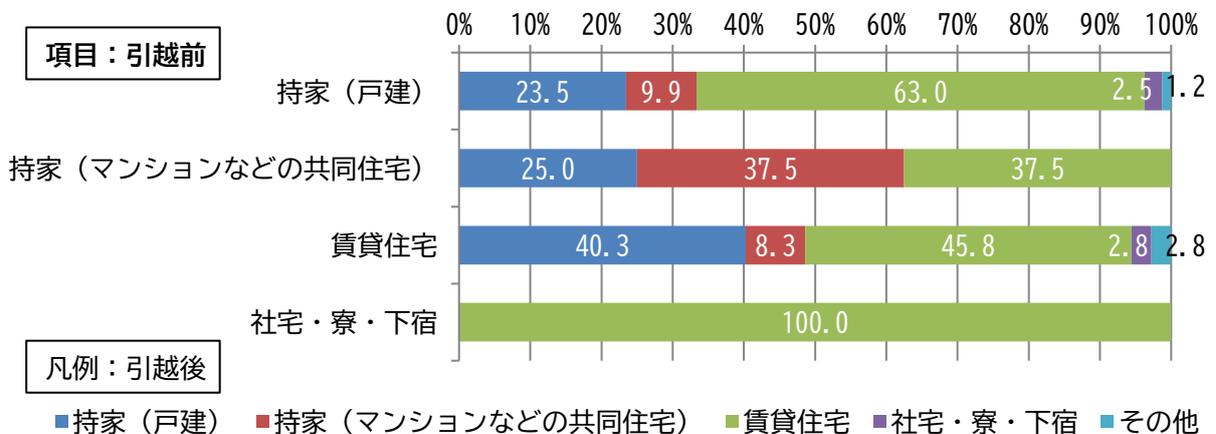
居住形態の変化を見ると、引越し前に持家(戸建)に住んでいた方の63.0%は賃貸住宅に引越している。持家(共同住宅)からは持家(共同住宅)および賃貸住宅への転出がどちらも37.5%、賃貸住宅からの転出は賃貸住宅が45.8%、持家(戸建)が40.3%となっており、戸建住宅を持つことを目的としての転出も見られる。



引越す前(羽曳野市在住中)の住宅割合



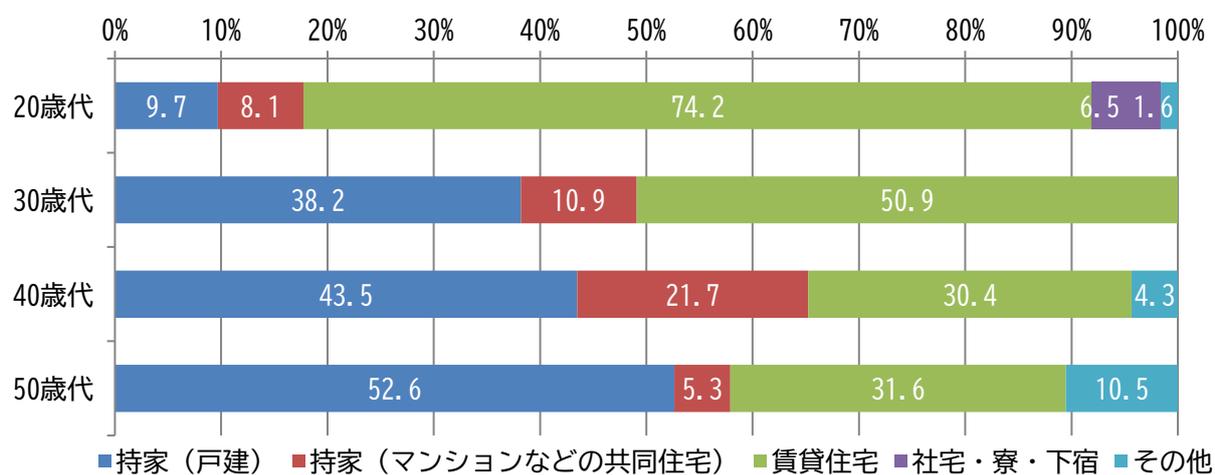
引越し後の住宅割合



居住形態の変化

## ■ 年代別

転出後、20歳代では74.2%が賃貸住宅に住んでおり、社宅・寮・下宿とあわせて8割以上の方が借家に住んでいる。年齢が高くなるにつれ持家（戸建）の割合は高くなり、50歳代では半数以上の52.6%が転出後、持家（戸建）に住んでいる。

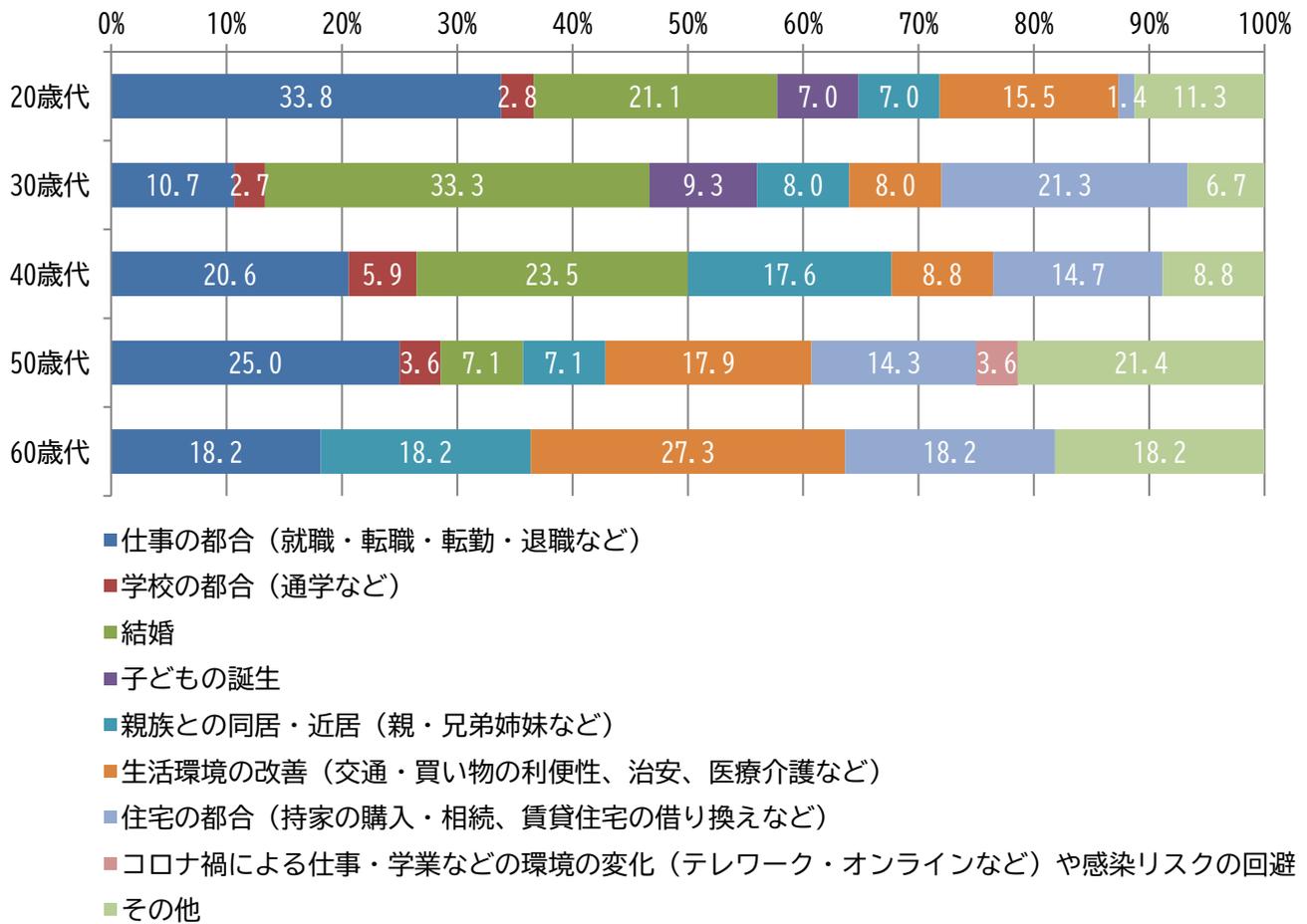


## (4) 転出理由

### ■ 年代別

20歳代は、仕事の都合による転出が33.8%と最も多く、次いで結婚が21.1%となっている。30歳代、40歳代はいずれも結婚による転出が最も多く、次いで30歳代は住宅の都合、40歳代は結婚や仕事の都合が上位となっている。50歳代では、仕事の都合が最も大きな割合であり、次いで生活環境の改善となっている。

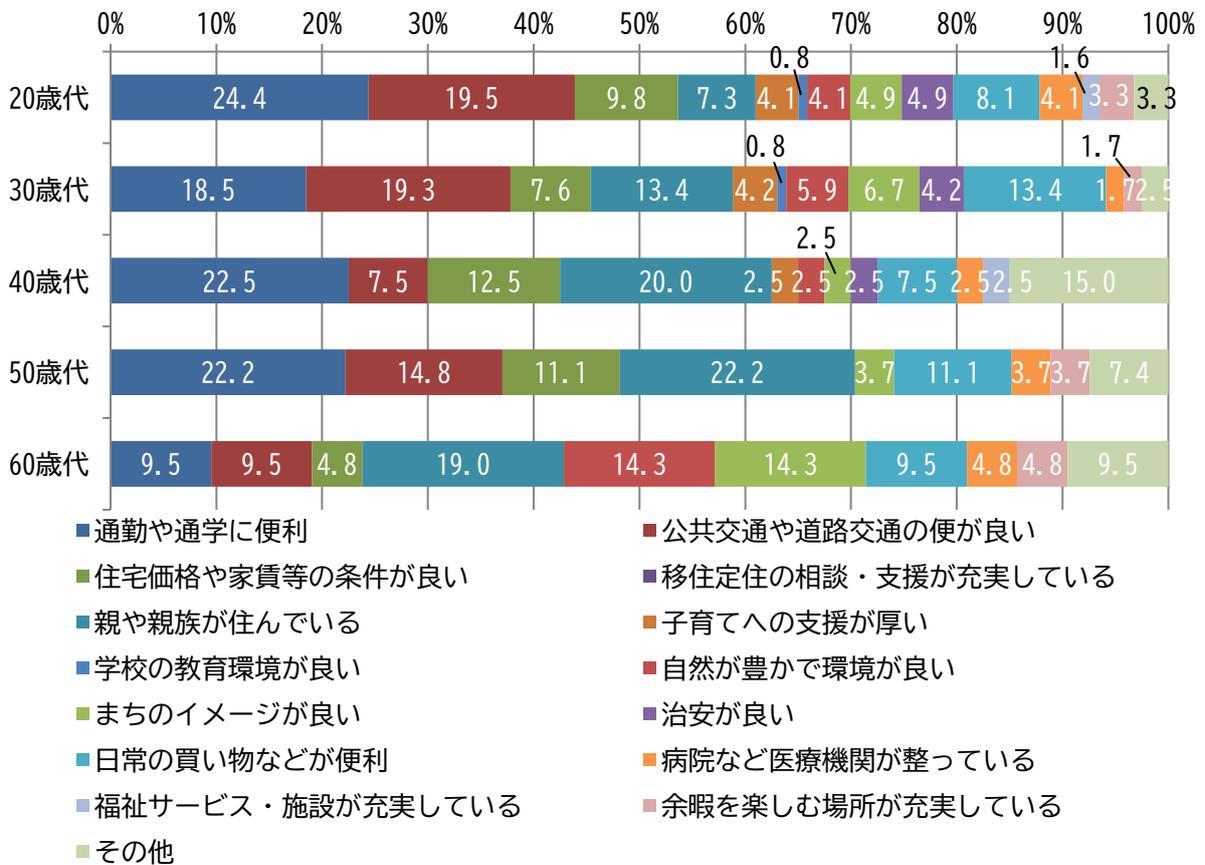
また、60歳代では生活環境の改善を理由に転出する状況が生まれている。



## (5) 転出先市町村を選択した理由

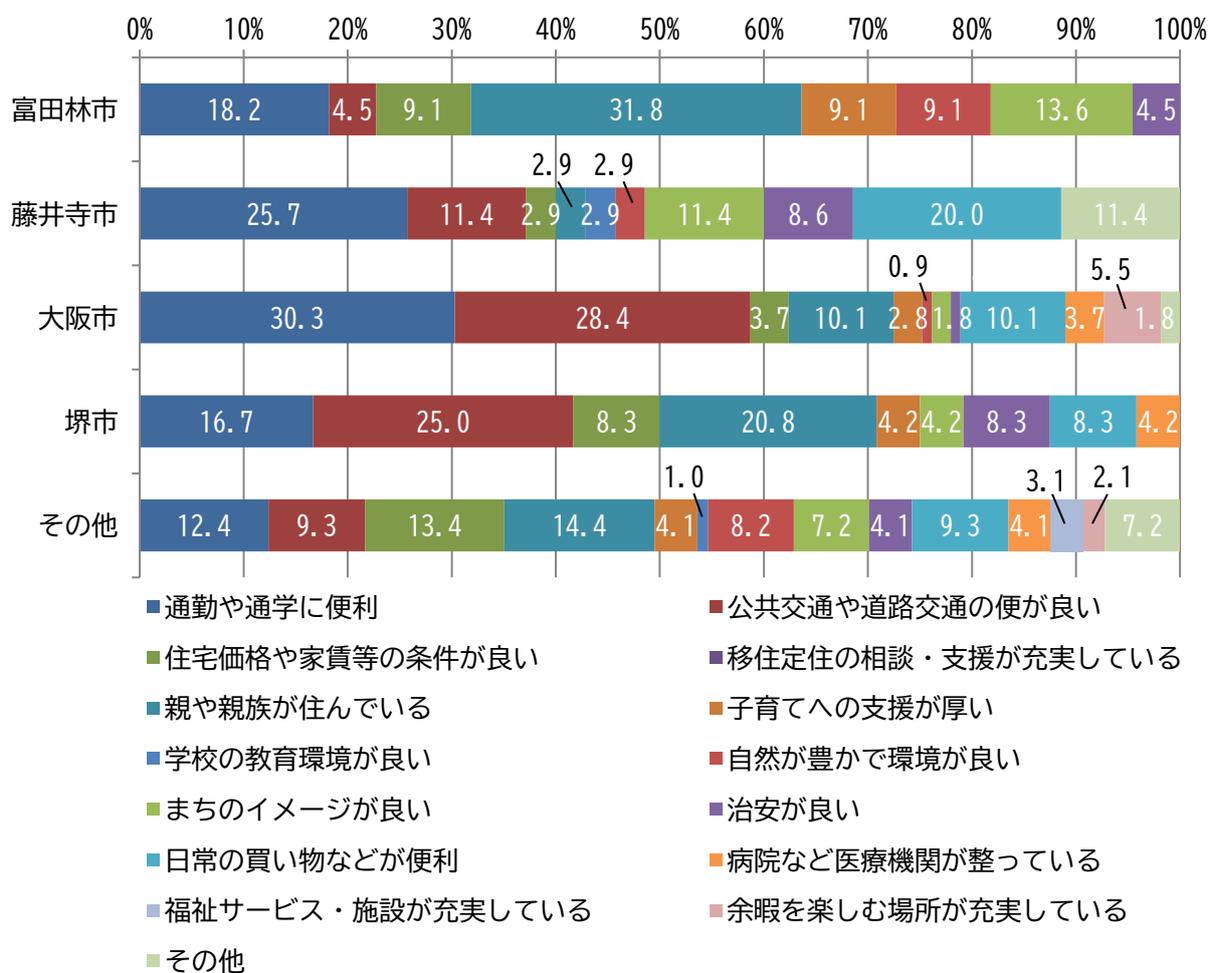
### ■ 年代別

20歳代は、「通勤・通学に便利」が最も多く24.4%、次いで「公共交通機関や道路交通の便が良い」が19.5%となっている。年代が高くなるにつれ、「親や親族が住んでいる」と回答する割合が大きくなり、40歳代で20.0%、50歳代で22.2%、60歳代においては19.0%となっている。20歳代、30歳代では「公共交通機関や道路交通の便が良い」が転出理由となっているが、40歳代以上の年代では回答割合が減少している。



## ■ 引越後に住んでいる市町村別

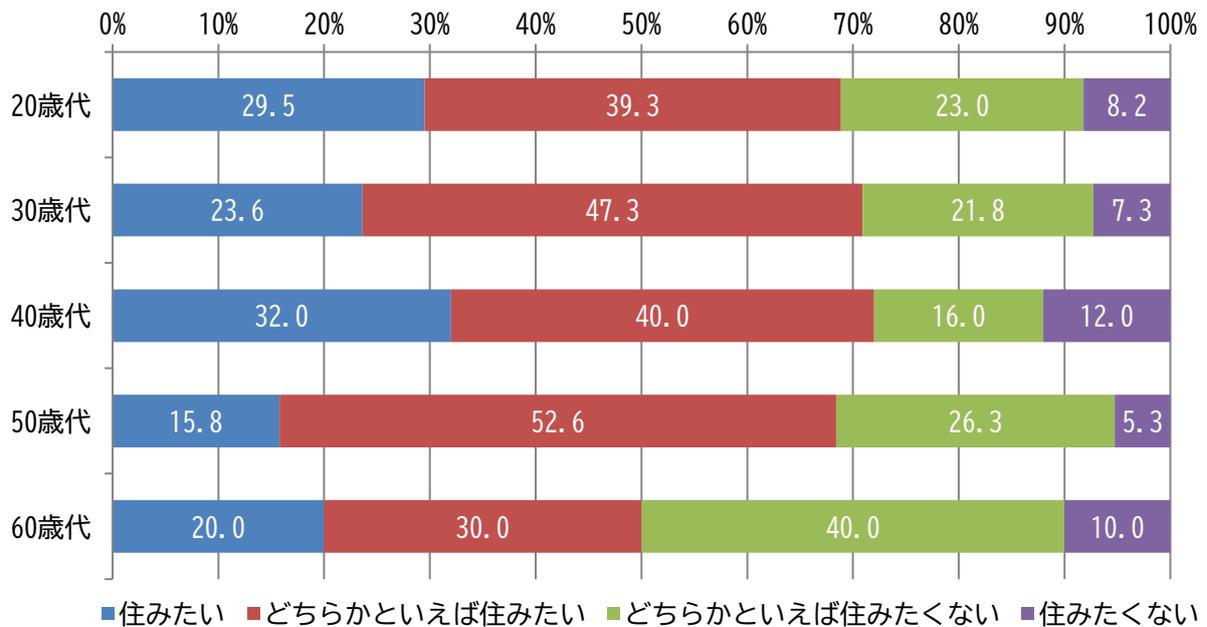
大阪市や藤井寺市、堺市では「通勤・通学に便利」や「公共交通の便が良い」が上位となっている一方で、富田林市に転出した方の傾向としては、「親や親族が住んでいる」が31.8%となっており、転出先に応じて転出理由の傾向が異なっている。



## (6) 羽曳野市にもう一度住みたいと思うか

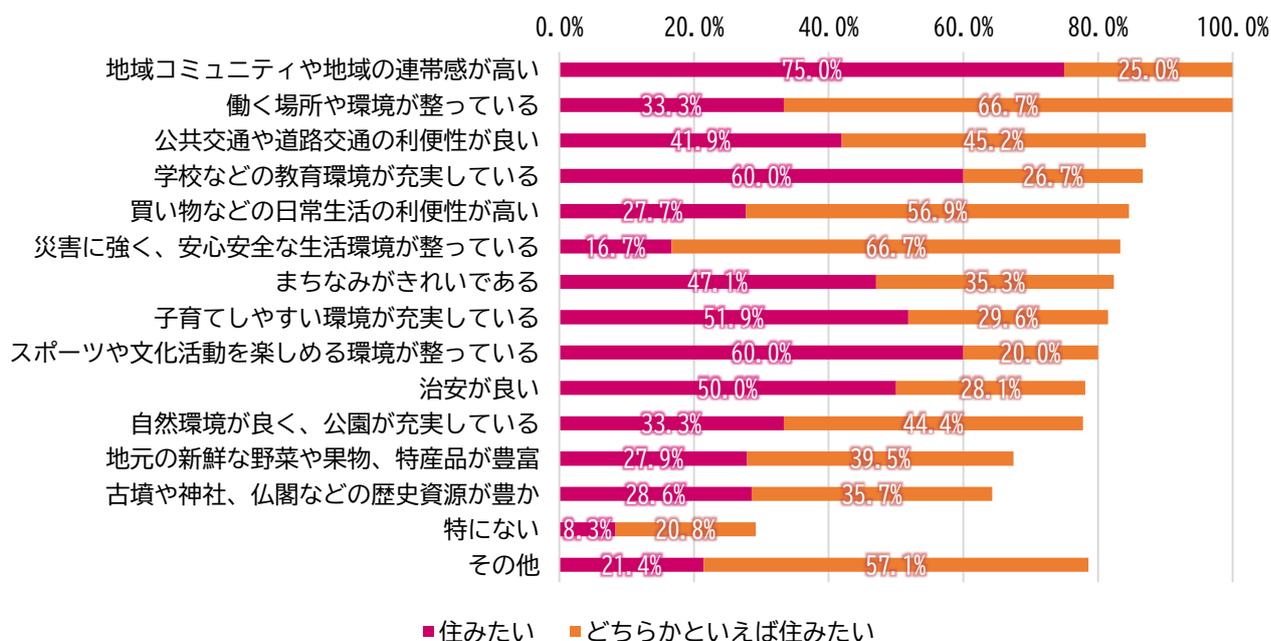
### ■ 年代別

20歳代～50歳代にかけて、年代別に再度住みたいかの意向の違いはあまり見られず、7割前後が「住みたい」もしくは「どちらかといえば住みたい」と回答している。

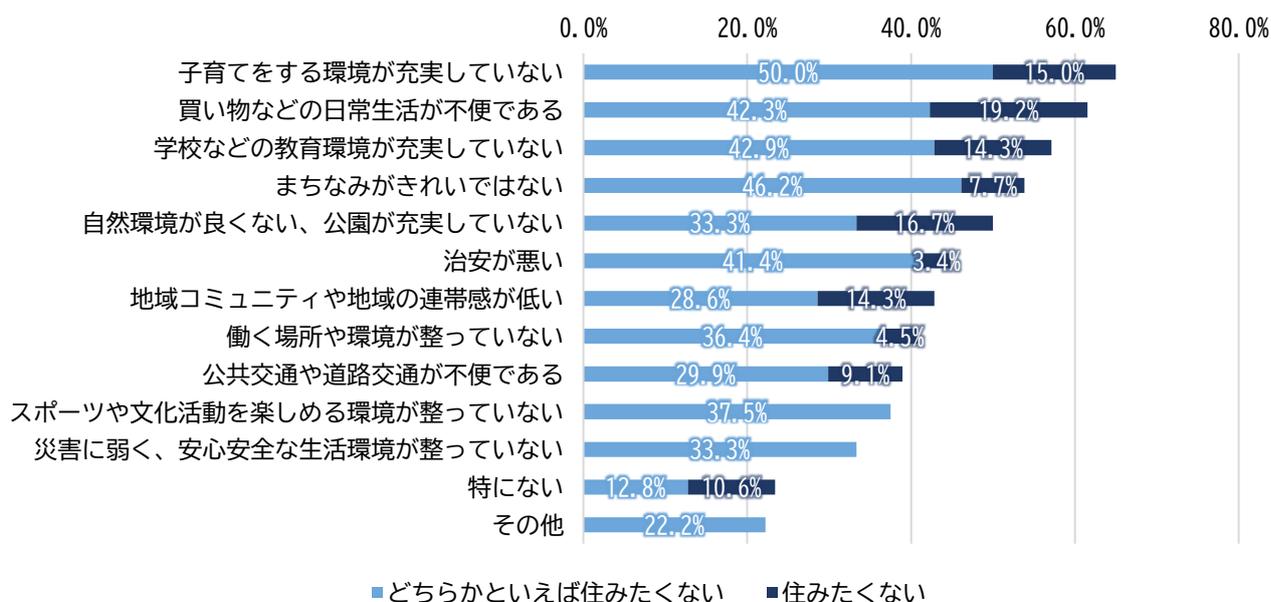


## ■ 生活していてよかったことおよび不満

羽曳野市にまた「住みたい」「どちらかといえば住みたい」と回答した人の100%が「地域コミュニティや地域の連帯感が高い」、「働く場所や環境が整っている」と回答している。一方、「どちらかといえば住みたくない」「住みたくない」と回答した方のうち、65.0%が「子育てをする環境が充実していない」、61.5%が「買い物などの日常生活が不便である」、57.2%が「学校などの教育環境が充実していない」と回答している。



「住みたい」「どちらかといえば住みたい」と回答した方の、生活していてよかったこと

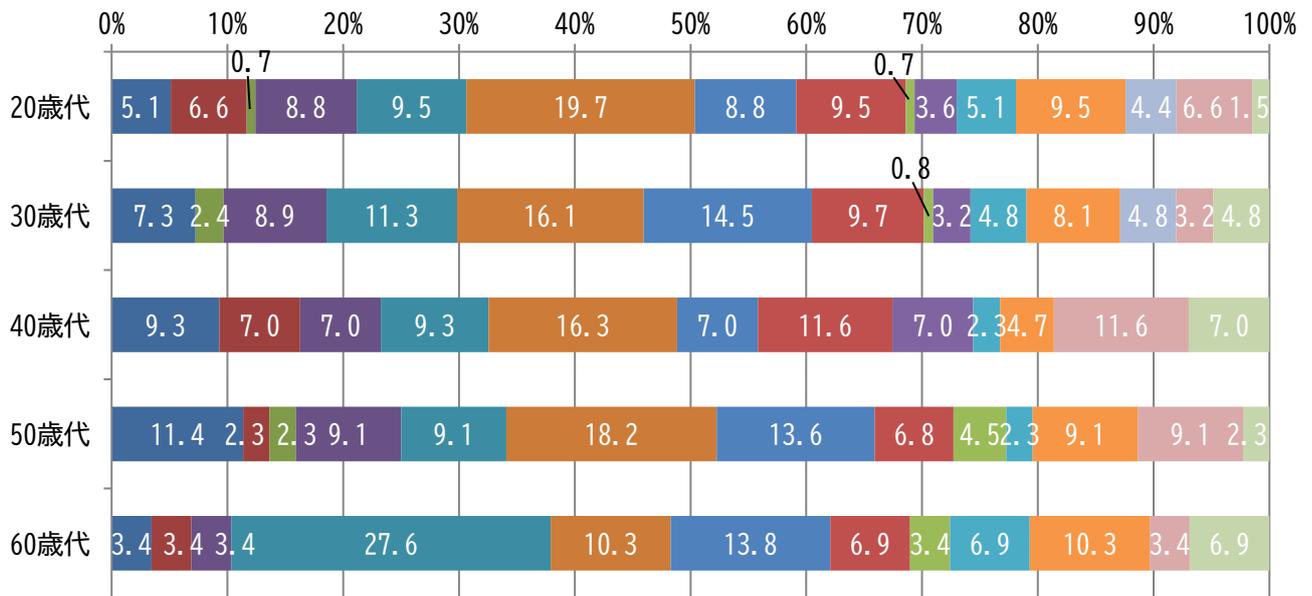


「どちらかといえば住みたくない」「住みたくない」と回答した方の、生活上の不満

## (7) 羽曳野市で生活していてよかったこと

### ■ 年代別

20歳代～50歳代にかけては、「買い物などの日常生活の利便性が高い」が最も大きな割合となっている。また30歳代、50歳代、60歳代では「地元の新鮮な野菜や果物、特産品が豊富」であることが評価されており、60歳代では27.6%が「古墳や神社、仏閣などの歴史資源が豊か」と評価している。

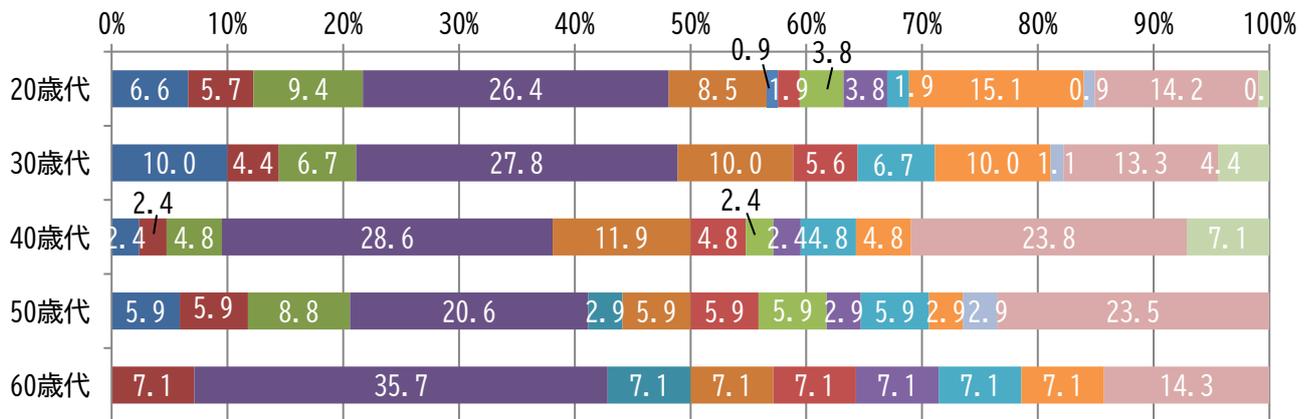


- 子育てしやすい環境が充実している
- 働く場所や環境が整っている
- 古墳や神社、仏閣などの歴史資源が豊か
- 地元の新鮮な野菜や果物、特産品が豊富
- スポーツや文化活動を楽しめる環境が整っている
- まちなみがきれいである
- 災害に強く、安心安全な生活環境が整っている
- その他
- 学校などの教育環境が充実している
- 公共交通や道路交通の利便性が良い
- 買い物などの日常生活の利便性が高い
- 自然環境が良く、公園が充実している
- 地域コミュニティや地域の連帯感が高い
- 治安が良い
- 特にない

## (8) 羽曳野市で生活していて不満だったこと

### ■ 年代別

各年代で、「公共交通や道路交通が不便である」という回答が最も多く、特に 60 歳代では 35.7%が回答している。20 歳代では、次いで 15.1%が「治安が悪い」と回答、30 歳代では「子育てをする環境が充実していない」、「買い物などの日常生活が不便である」、「治安が悪い」が同数回答、40 歳代では「買い物などの日常生活が不便である」、50 歳代では「働く場所や環境が整っていない」といった回答が上位になっている。



- 子育てをする環境が充実していない
- 学校などの教育環境が充実していない
- 働く場所や環境が整っていない
- 公共交通や道路交通が不便である
- 古墳や神社、仏閣などの歴史資源に乏しい
- 買い物などの日常生活が不便である
- 地元の新鮮な野菜や果物、特産品に乏しい
- 自然環境が良くない、公園が充実していない
- スポーツや文化活動を楽しめる環境が整っていない
- 地域コミュニティや地域の連帯感が低い
- まちなみがきれいではない
- 治安が悪い
- 災害に弱く、安心安全な生活環境が整っていない
- 特にない
- その他

## まとめ

- 羽曳野市への転入前に住んでいた場所は大阪市や松原市からが多いほか、大阪市北部や奈良県も含めてさまざまである。一方、転出は大阪市が最も多く、藤井寺市や富田林市、大阪北部や奈良県にもそれぞれ全体の10%未満ではあるが転出している。
- 転入理由としては各年代で「親や親族が住んでいる」が大きな割合を占める一方、転出理由としては、20歳代は「仕事の都合」、30,40歳代は「結婚」が挙げられている。
- 転出入に伴い居住形態が変化する世帯が多い。羽曳野市への転入では賃貸住宅から持家への転換、転出では持家（戸建）から持家（共同住宅）や賃貸住宅への変化がみられる。
- 転出理由や羽曳野市で生活しているの不满として、最上位は「公共交通や道路交通が不便である」と回答されている一方で、転入理由として20歳代では「通勤・通学に便利」といった回答もなされており、市内移動の不便さと通勤先への移動のしやすさが結果として現れていると考えられる。
- 転入者アンケートにて、「住みよい」「どちらかといえば住みよい」と回答した方は「学校教育」、「自然環境」、「治安の良さ」、「災害に対する強さ」を評価している一方で、転出者アンケートにおける「また住みたいと思うか」という設問に対して「どちらかといえば住みたくない」「住みたくない」と回答した方は「子育て環境」、「買い物などの日常生活」、「学校教育」に不満を抱いており、子育て・教育環境に対する評価に転出者と転入者の評価の差がみられる。
- 「買い物などの日常生活の利便性」については、羽曳野市での生活においてよかったこと、不満だったことの両方で上位に入っている。